

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和3年度 富山南高等学校アクションプラン -1-

重点項目	学習活動（教科指導全般の充実）						
重点課題	教科指導の充実						
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びに向けた授業への改善が求められるところから、指導内容や方法について各教科部会を中心に研修しているところである。思考力問題への対応、表現力の向上について、授業研究を活発化していく必要がある。 ・全生徒にタブレットが配布されたこともあり、多くの教員がICTを活用した授業の研究を取り入れができるようになり、ICTを活用した授業の研究を進める必要がある。 ・互見授業を実施し、多くの教員が複数の授業を参観している。しかし、見学後に意見を交換する機会が少なく、授業の質の向上につながりにくい。 ・ICTを活用した授業は、他教科からの意見や協力も必要となるが、意見交換や連携が取りにくい。 ・従来とは異なる授業形態が増えてきており、生徒の授業に対する反応や感想を把握しながら進める必要がある。 						
達成目標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">①互見授業に積極的に参加し、意見を交換する。</td> <td style="padding: 5px;">②生徒の授業に対する満足度 授業アンケートで「わかりやすかった」に4または5と評価されている割合</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">各自、1学期・2学期に2時間以上の授業を見学し、意見を交換する。</td> <td style="padding: 5px;">70%以上</td> </tr> </table>			①互見授業に積極的に参加し、意見を交換する。	②生徒の授業に対する満足度 授業アンケートで「わかりやすかった」に4または5と評価されている割合	各自、1学期・2学期に2時間以上の授業を見学し、意見を交換する。	70%以上
①互見授業に積極的に参加し、意見を交換する。	②生徒の授業に対する満足度 授業アンケートで「わかりやすかった」に4または5と評価されている割合						
各自、1学期・2学期に2時間以上の授業を見学し、意見を交換する。	70%以上						
方 策	①互見授業 <ul style="list-style-type: none"> ・年間4週程度(1学期2週、2学期2週)の実施期間を設け、積極的に見学するよう促す。 ・1~2学期に関しては実施期間でなくても見学できることとし、直近の実施期間後の教科会議で意見交換を行う。 ・公開授業など、他校で行われたものに関しても教科内にフィードバックする。 ・互見授業を通して、ICTを活用した授業について意見や情報の交換を積極的に行う。 ・互見授業の感想・意見を一覧にし、他の教員に対する感想・意見も見られるようにする。 	②生徒の授業に対する満足度 <ul style="list-style-type: none"> ・7月および12月を基本に授業アンケートを実施する。 ・7月のアンケートの結果を数値化し、授業の改善ための参考とする。 ・12月のアンケート結果を7月の結果と比較し、改善点がみられたかどうか、振り返りを行う。 					

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和3年度 富山南高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学習活動（国際理解教育）							
重点課題	英語コミュニケーション能力の育成と国際コースの活動の充実							
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を軸とし、さらに様々な活動（プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等）を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指している。 ・「国際コミュニケーション」を学校設定科目として設定し、自然な英語の聞きとり、英語でのプレゼンテーション、意見交換ができる英語力の育成に努めている。 ・特色ある国際コースを主とした活動である「国際理解のための講演会」、「食文化交流会」、及び「国際理解セミナー」がより有意義なものになるよう、事前・事後指導の充実に努めている。 ・コロナ禍においても、サンディギート高校や台湾、北アイルランドの交流校とオンラインの交流を継続している。 ・GTECは1年生が7月・12月、2年生が12月のアセスメント版、3年生が8月の検定版の受検を予定している。 ・令和2年度国際コース卒業生で英語検定2級以上を取得した生徒の割合は59%で、うち3名は準1級を取得し、目標を達成した。 ・令和2年度国際コース2年生で英語検定2級以上を取得した生徒の割合は71%で、うち3名は準1級を取得している。 							
達成目標	<p>①コミュニケーション能力をレベルアップした生徒の割合 (GTEC 4技能、英検)</p> <table border="1" style="margin-left: 10px;"> <tr> <td>GTEC 690点以上 70% (1年)</td> <td>②「国際理解セミナー」、「国際理解のための講演会」への参加生徒の満足度（希望者も含む）の割合</td> </tr> <tr> <td>755点以上 70% (2年)</td><td>アンケート調査による「たいへん満足」「ほぼ満足」の割合が合わせて90%以上</td> </tr> <tr> <td>790点以上 70% (3年)</td><td></td> </tr> </table> <p>英検（国際コース）2年終了時の英語検定2級以上取得者割合 50%以上</p>	GTEC 690点以上 70% (1年)	②「国際理解セミナー」、「国際理解のための講演会」への参加生徒の満足度（希望者も含む）の割合	755点以上 70% (2年)	アンケート調査による「たいへん満足」「ほぼ満足」の割合が合わせて90%以上	790点以上 70% (3年)		
GTEC 690点以上 70% (1年)	②「国際理解セミナー」、「国際理解のための講演会」への参加生徒の満足度（希望者も含む）の割合							
755点以上 70% (2年)	アンケート調査による「たいへん満足」「ほぼ満足」の割合が合わせて90%以上							
790点以上 70% (3年)								
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・国際コースに限らず、全クラスで英語4技能5領域の力の向上を目指す授業を行う。 ・英語に関する行事（イングリッシュ・キャンプ、サンディギート校とのオンライン集中交流）を工夫して行い、生徒の英語に関する興味・関心を高める。 ・英語の4技能5領域の力を計るパフォーマンス評価を継続して行う。 ・英語検定の受検を推奨する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際理解」、「英語活動」、「コミュニケーション能力の向上」等に関する講師を県内外問わず招聘する。 ・「国際理解セミナー」及び「国際理解のための講演会」が、より有意義なものになるよう事前指導を十分に行う。また事後に振り返り（感想）をさせることで、今後の学校生活や進路選択に役立たせる。 ・満足度に関するアンケートを行い、より充実した行事になるよう工夫する。 						

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和3年度 富山南高等学校アクションプラン - 3 -			
重点項目	学校生活（生徒指導）		
重点課題	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 明るくまじめな生徒が多いものの、遅刻を繰り返したり、きちんとした服装やマナーが定着していない生徒も見受けられる。 本校では、校地内でのスマートフォン等の使用を禁止しているものの、各学年で年間10回程度の違反者が報告されており、その都度指導している。また、件数としては少ないものの、毎年、ネットパトロールからの連絡を受けており、個人情報保護に関する知識が少なく、SNS等の危険性についても認識が薄いと思われる。 昨年度は交通事故が10件発生。すべて自転車乗車中の事故で、重大事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーに関する苦情も寄せられている。 不審者による被害は大幅に減ったが、職員によるパトロールは継続している。 		
達成目標	<p>①スマートフォン等の利用の際に危険性を認識していると答える生徒の割合</p> <p>全校生徒の80%以上</p>		<p>②交通事故の年間件数</p> <p>昨年度の50%以内（目標は0件）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・服装・あいさつ・マナー等に関する指導は、教育活動全体の中で全教員が一丸となって行う。特に、月初め3日間の登校指導や、生活委員・生徒会が協力して挨拶運動を行う中で、生徒一人ひとりが主体的に自覚と責任をもった行動ができるように指導する。 ①スマートフォン <ul style="list-style-type: none"> スマートフォン等の使い方や危険性について、冊子・イレブンセブン運動案内などを利用し、全校集会や学年集会などの機会を捉えて指導を行う。また、SNS等に関する取り組みとして、HR等を利用してネットルールを遵守させるとともに、アンケートを実施し、使用状況・危険性の認識等を把握し、今後の指導に役立てる。 ②交通事故 <ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室等やさわやか運動、登校指導、毎月1回のサイクル安全リーダーによる交通安全街頭指導、HR、生徒会を通して交通安全に関する意識の高揚を図る。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和3年度 富山南高等学校アクションプラン - 4 -			
重点項目	学校生活（保健指導）		
重点課題	新型コロナウイルス感染予防と疾病予防に対する自己管理の徹底		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから2年になるが、変異型のウイルスによってさらに感染の可能性が高まっている。校内では、マスクの着用、登校時の手指消毒、授業中の常時換気については、ある程度実行できているが、昼食時に前を向いてしゃべらないで静かに食べる習慣はついていない。これらの対策を徹底させることにより少しでも安心して学校生活を送れるようにさせたい。 昨年度は、定期健康診断の実施が遅れ、発行した各種治療カードの枚数198枚中、回収された治療カードは24枚で12%でしかない。そこで、本年度は各種治療カードの回収率を高めるように生徒や保護者により強く働きかけ、早めに治療して、健康な生活を送ることができるようさせたい。 		
達成目標	<p>①新型コロナウイルス感染対策のアンケート調査による対策実施率 80%以上</p>		<p>②各種治療カードの回収率 25%以上</p>
方 策	<p>①新型コロナウイルス感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ST、校内放送、集会などで感染対策について呼びかける。 保健委員を中心に感染予防のポスターを作成し、掲示する。 保健だよりなどで、感染予防の知識を広める。 <p>②各種治療カード</p> <ul style="list-style-type: none"> 治療カード未提出者をデータベース化し、2ヶ月に1度治療を促す。 保護者会の機会に、治療カード未提出者の保護者に治療に行かせるよう促す。 各種治療カードの提出状況をクラス毎に集計し、発表する。 治療カードの提出を呼びかけるポスターを作成し、掲示する。 		

令和3年度 富山南高等学校アクションプラン -5-		
重点項目	進路支援	
重点課題	高い志を持ち進路目標の達成に取り組む生徒の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学に進学したいと考えている生徒の割合は1・2年次で9割以上、3年次で8割以上になるが、具体的な進路目標をもった生徒の割合が低い。 学部学科を2年次1学期までに決定できる生徒の割合が少ない。 学年と協力し情報を共有しながら、1年次から3年間を見通した学習・進路指導を成長段階に応じて行い、生徒のそれぞれの意欲を持続させられるよう工夫している。 	
達成目標	①高校生のための学びの基礎診断を利用した学習到達度(GTZ)を達成した生徒の割合 1月模試において総合B1以上の生徒の割合が1年生は6割以上、2年生は5割以上3年生は11月模試において総合B1以上の生徒の割合が5割以上	②年間の面接回数 生徒1人につき5回以上
方 策	<p>①学習到達度</p> <ol style="list-style-type: none"> 学力検討会及び学年会を通して、教科と学年が連携して生徒の学習意欲を喚起し、学力の定着が図ることができるよう努める。 S T前の朝の時間を活用して、短時間に集中し、かつ継続して学習させる。 普段の個別試験対策に加え、共通テストから個別試験の学習へよりスムーズに移行できるよう努める。 <p>②面接</p> <ol style="list-style-type: none"> 進路指導計画に基づく各学年の方針に従い、生徒との個人面接を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、具体的な目標を個々に設定させる。キャリア・パスポートを利用して、自己理解に努めさせる。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和3年度 富山南高等学校アクションプラン -6-		
重点項目	特別活動(HR活動、学校行事の充実)	
重点課題	生徒による主体的な企画・立案・運営	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の学校アクションプランにより、学年及びクラスでテーマを決めて討論し、問題解決に向け意見交換をするような活動を企画・実施した。今年度も継続的な取り組みにより学校全体で定着を図る。 多くの生徒は体育大会や南苑祭など、学校行事に積極的に取り組んでいる。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小したり、内容を変更したりしたため、準備等「積極的な参画」という点で目標値に届かなかった。感染状況を注視しながら、主体的、積極的な取り組みができるよう、内容等を工夫する必要がある。 	
達成目標	①ホームルーム活動及び学年活動において、討論会などを各学期1回(年間3回以上)計画、実施する。	①体育大会、南苑祭(南苑WEEK)の満足度 それぞれ80%以上 ②企画、準備段階での取り組み姿勢や当日の運営及び参加姿勢 「積極的な参画」80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学期始めのホームルーム計画立案の際や総合的な探究の時間を利用して、討論形式の内容を組み込むなど、様々な場面を活用しながら、課題に対して一人ひとりが自分なりの意見や意思をもった上で、合意形成に向けた話し合い活動に臨むことができる機会を設ける。 実施状況等についてアンケートを調査し、次回の計画等に生かす。 体育大会は生徒会執行部や体育委員、南苑祭は生徒会執行部や南苑祭実行委員を中心となって企画している。作業分担など、より多くの生徒が様々な場面で積極的に参画できる機会を工夫することで、学校行事への自主的、主体的な運営につなげる。 満足度アンケートで、意見を集約し、改善に生かす。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和3年度 富山南高等学校アクションプラン -7-

重点項目	特別活動（図書指導の充実）	
重点課題	読書習慣の定着と図書館及び図書資料の活用促進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量の多い生徒もいる反面、読書習慣のない生徒がいる。昨年度1人あたりの貸出冊数は2.3冊であった。(R元年度 3.5冊 H30年度 3.5冊) ・図書館への来館人数は1日平均38人であった。 ・本を主体的に読み、考え、表現する力が、十分についているとはいえない。 ・小論文や調べ学習の機会が増え、生徒自身が情報を選択しまとめることが必要になっている。しかし、生徒の図書検索力は十分とはいえない。 ・昨年度レファレンス（図書資料や情報を求めている生徒たちに支援する活動）を利用した生徒数はのべ78人だった。 	
達成目標	① 1人あたりの貸出冊数 1年間に3冊以上	② レファレンスを利用した生徒数 1年間にのべ70人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年での図書館利用指導を充実させる。 ・生徒図書委員による企画を支援し、読書の楽しさを体験できる場を設定する。（放送部と連携した図書案内、ビブリオバトル等） ・「としょだより」（生徒図書委員発行）と「Library」（図書部発行）を配布し、新刊図書案内や生徒の読後感等を掲載することによって、生徒の読書欲を喚起する。 ・県立図書館と連携し、領域や系統を決めて一つのテーマや内容に沿った関連図書を紹介するコーナーを設ける。 ・従来のパスファインダーをSDGs関連の書籍ともリンクさせ、生徒が課題研究を行う際に、活用しやすい形に整える。 ・図書館蔵書検索ソフト「カーリル」（生徒用タブレットから学校図書館及び県立図書館の蔵書が検索可能）を導入し、生徒の読書活動を支援する。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)